令 和 7 年 度

市立札幌病院初期臨床研修プログラム

市立札幌病院レジデント教育委員会

目　　次

Ⅰ　プログラムの目的と特徴

Ⅱ　病院概要

Ⅲ　プログラムの管理運営体制及び指導体制

Ⅳ　募集要領

Ⅴ　病院見学

Ⅵ　教育課程

【参考】　市立札幌病院臨床研修要綱
　　市立札幌病院当直・救急外来医師要綱

Ⅰ　プログラムの目的と特徴

当院は、札幌市の基幹病院としての使命を果たすために、高度先進医療の推進、救急医療の充実、医師及び医療技術者の教育、臨床的医学研究などを行っており、研修医についても、平成16年度から開始された卒後臨床研修の義務化に従い、診療に関する知識及び技能を実地訓練し、医学の進歩に対応して、自らの診療能力を開発し得る基礎を養うとともに、医の倫理を体得し、医師としての資質の向上を図ることを目的としております。

また、当院での臨床研修は、研修医が配属された診療科だけで行うのではなく、病院全体で行うという考えに立っており、配属された診療科は各研修医の診療活動の拠点のひとつです。臨床研修の主な目的として、プライマリ・ケアに要求される知識、技能及び態度の修得を含む幅広い能力を持ち、全人的に患者を診療し得る医師の養成を目指しております。

中でも初期臨床研修は、医師としての基本的な臨床の知識と技能を修得し、プライマリ・ケアが無難かつ確実に遂行できる医師としての基盤をつくる期間です。

なお、専門研修においては、初期臨床研修で培った知識及び技能を、専修科でさらに研修を重ねるとともに、患者を全人的に診療し得るよう指導医のもとで研修を重ねる期間です。これを実現するため、専門研修期間を最大で３年間とし、初期研修と併せ総合的な臨床研修病院として充分な研修体制が整っております。

Ⅱ　病院概要

１　基本理念、運営方針

基　本　理　念

市立札幌病院はすべての患者さんに対してその人格信条を尊重しつねに“やさしさ”をもって診療に専心する。

運　営　方　針

①　患者さんの人格を尊重し､患者さんに信頼される医療を行います。
②　地域医療支援病院として、地域医療の充実・発展に貢献します。
③　高度急性期・急性期医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
④　自治体病院として他の医療機関では対応が困難な政策医療を提供します。
⑤　医療技術の向上を図り、優れた医療従事者を育成します。
⑥　全職員が連携し、信頼しあう、明るく誇りの持てる「チーム市立札幌病院」をつくります。
⑦　公営企業として健全な財政運営を図ります。

病院長　西川　秀司

２　診療科

〔内科系〕呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・免疫内科、血液内科、精神科、脳神経内科、小児科、新生児内科、感染症内科、放射線治療科、放射線診断科、緩和ケア内科、病理診断科

〔外科系〕外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、腎臓移植外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・甲状腺外科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、救命救急センター

３　病床数及び外来・入院患者数

病床数（令和５年度）	６７２床
外来患者/日（令和５年度）	１０５０．８人
入院患者/日（令和５年度）	４９１．４人

Ⅲ　プログラムの管理運営体制及び指導体制

＜管理運営体制＞

【プログラム責任者】　　西川　秀司（病院長）
【臨床研修センター長】　中村　雅則（副院長）

当院には、病院長の諮問機関としてレジデント教育委員会があり、レジデントの選考、研修計画、研修状況等について審議、検討を行っております。

また、レジデント教育委員会の下部組織として若手指導医を中心とした臨床研修プロジェクトチーム委員会を設置し、弾力的なプログラムの運用に努めております。

さらに平成26年4月より、臨床研修センターを設置し、研修医が心おきなく研修に打ち込めるように、よりきめ細かくサポートする体制を整えました。

＜指導体制＞

各診療科に指導医を配置しており、ローテーションする診療科ごとに、指導医が指導を行い、研修修了項目の確認、評価表の作成を行います。

Ⅳ　募集要領

市立札幌病院（院長　西川　秀司）では、令和６年度初期臨床研修医を下記の要領で募集いたします。

記

１　応募資格

令和７年に医師国家試験を受験し、かつマッチングに参加する方

２　診療科

呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・免疫内科、血液内科、精神科、脳神経内科、小児科、新生児内科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、腎臓移植外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・甲状腺外科、リハビリテーション科、感染症内科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、緩和ケア内科、病理診断科、救命救急センター

３　募集人数

11 名（基幹型分）

４　研修期間

令和７年４月１日～令和９年３月３１日の予定ですが、関係法令の改正その他の理由により、変更する場合があります。

５　採用選考試験

⑴　試験日程

	試験日	応募締切日
第１回	令和６年８月１４日（水）	令和６年７月１９日（金）
第２回	令和６年８月１６日（金）	
第３回	令和６年８月１９日（月）	

※　応募人数によっては、第１回、第２回のみの開催となります。
※　いずれの日程もご都合の悪い方は予備日を用意しますので、お申し出ください。
※　試験の集合時間及び場所等の詳細については、申込者あてに後日通知いたします。

⑵　応募方法

①採用選考申込書、②履歴書（写真貼付のもの）、③卒業（見込）証明書、④小論文（詳細は下記参照）を持参又は郵送の方法により提出してください（締切日必着）。

※　①、②、④の様式は、当院ホームページでダウンロードできます。

【小論文について】
●テーマ
・あなたが目指す理想の医師像
・初期臨床研修に向けての抱負
・市立札幌病院を選んだ理由

上記の３項目をすべて含んだ内容の小論文を原稿用紙１，２００字以上～１，６００字以内でまとめてください。なお、３項目への言及は順不同で結構ですので、自由に述べてください。

※　手書きまたはワード等で作成した用紙をご提出ください。様式は、「当院ホームページでダウンロードした原稿用紙」または「その他の任意の様式」といたします。

※「その他の任意の様式」で提出する場合には、文末に文字数を明記してください。

６　処遇等

⑴　身分

会計年度任用職員フルタイム

⑵　勤務時間

８時４５分～１７時１５分（このうち１２時１５分～１３時００分が休憩時間）

⑶　休日

日曜日・土曜日・祝日、１２月２９日～１月３日

⑷　休暇

	１年次	２年次
年次休暇	１０日	１１日
夏季休暇	５日	５日
病気休暇	６０日	６０日

※　その他各種特別休暇あり

⑸　給与

	１年次	２年次
給料	288,100円／月	306,100円／月
地域手当	給料の16%	
通勤手当	運賃等相当額	
期末手当（令和５年度実績）	夏0.4月、冬1.2月	夏1.2月、冬1.2月
期末手当（令和６年度予定）	夏0.408月・冬1.225月	夏1.225月・冬1.225月
勤勉手当（令和６年度新設）	夏0.341月・冬1.025月	夏1.025月・冬1.025月
時間外勤務手当　等	実績に応じた金額	

※　給料等は当月２１日払い、時間外勤務手当等は翌月２１日払いとなります。

※　年収（見込）は、１年次約 508 万円、２年次約 592 万円です。

このほか、実費相当額の通勤手当、実績に応じて時間外勤務手当等を支給します。

⑹　その他

・　研修医室あり

・　宿舎あり（看護師共用、女性限定、室数上限あり）

・　各種社会保険適用（健保・厚年・労災・雇保）

・　定期健康診断：有、医師賠償責任保険：病院として加入

７　書類の提出及び問い合わせ先

市立札幌病院レジデント教育委員会　臨床研修センター事務局（総務課職員係）

〒060-8604　札幌市中央区北 11 条西 13 丁目 1-1

℡ 011-726-2211 内線 2126　E-mail：ho.kanri@city.sapporo.jp

【参考】　過去の研修医数

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
前　期（初　期）	２５名	２５名	２４名	２３名	２５名	２５名	２５名	２３名	２５名
後　期（専攻医）	２３名	２３名	２１名	１９名	２２名	１９名	１８名	２０名	１９名
合　計	４８名	４８名	４５名	４２名	４７名	４４名	４３名	４３名	４４名

Ⅴ　病院見学

【見学のお申し込み及びお問い合わせ先】

当院のホームページ上で見学申込書をダウンロードし、下記の送信用アドレスに送信してください。

●当院ホームページアドレス：http://www.city.sapporo.jp/hospital/

●送信用アドレス E-mail：ho.kanri@city.sapporo.jp

Ⅵ　教育課程

１　研修コース

平成１６年４月から始まった臨床研修必修化に伴い、ローテート方式を採用し、研修プログラムに基づく診療科を本人の希望に基づき、レジデント教育委員会が決定します。

この研修期間は、基本的に臨床医としての知識と技能を修得し、プライマリ・ケアが無難かつ確実に遂行できる臨床医となる素地をつくる期間であるので、研修の開始にあたり、オリエンテーションを行い、医師としての基本的マナーなど、医療を行うための土台となる学習を実施しております。

また、協力病院と連携し、原則４週以内で同病院での研修を行うこともできます。

※　ローテート決定に当たり、研修医の希望を尊重しますが、受入側診療科の指導体制も考慮します。特定の科に研修希望が集中し、不均衡となるような場合は調整があり得ることを、ご了承願います。

※　当院採用が決定した後のローテーション希望に関しては個別にお伺いし、ご相談をお受けいたします。

【分野、期間、病院・施設】

分野	期間	病院・施設
①内科（※１） （１年次推奨）	２４週以上 「１科４週以上」	・市立札幌病院
②救急部門	救命救急センター４週以上 （必修期間は１２週ですが、１２週のうち８週は２年間通して従事する救急外来当直を救急部門８週とみなします。）	・市立札幌病院

③地域医療 （２年次必修）	４週	・市立稚内病院 ・利尻島国保中央病院 ・市立根室病院
④必修科目（※２）	それぞれ４週以上	・市立札幌病院
⑤自由選択（※３） （１、２年次）	上記以外の週（①～④による）	・市立札幌病院 ・北海道大学病院 ・札幌医科大学附属病院 ・札幌市保健所
⑥一般外来（※４）	４週以上	・市立札幌病院

※１　内科の対象診療科は、下記のとおりです。
　呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ（・免疫内科）、血液内科、脳神経内科

※２　必修の対象診療科は、下記のとおりです。
　小児科、産婦人科、精神科、外科系（外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器科、救命救急センター）

※３　自由選択の対象は、下記のとおりです。
〔内科系診療科〕　呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ（・免疫内科）、血液内科、精神科、脳神経内科、小児科、新生児内科、感染症内科、放射線治療科、放射線診断科、緩和ケア内科、病理診断科、検査部
〔外科系診療科〕　外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、腎臓移植外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・甲状腺外科、リハビリテーション科、麻酔科
〔その他〕　保健・医療行政（札幌市保健所）

※４　月１～２回程度、臨床研修センター外来（並行研修）を行います。

【協力病院等】
協力病院等での研修可否、期間はその都度の調整により可能な範囲で実施します。
〈協力病院〉
・北海道大学病院（http://www.huhp.hokudai.ac.jp/）
　研修実施責任者：平野　聡、指導医：今野　哲 他
・札幌医科大学附属病院（https://web.sapmed.ac.jp/hospital/）
　研修実施責任者：辻　喜久　指導医：仲瀬　裕志 他

〈地域医療研修協力病院〉

・市立稚内病院（http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/hospital/）

研修実施責任者：國枝　保幸、指導医：西脇　邦彦 他

・市立根室病院（http://www.city.nemuro.hokkaido.jp/cgi-bin/hsp/index.php）

研修実施責任者：川本　雅樹、指導医：三好　直貴 他

〈地域医療研修協力施設〉

・利尻島国保中央病院（http://www.town.rishiri.hokkaido.jp/KOKUHO/）

研修実施責任者（指導医）：浅井　悌

〈地域保健協力施設〉

・札幌市保健所

研修実施責任者（指導医）：山口　亮

【（参考）ローテーション例】

●救急は４週以上必修。その他内科系中心のローテート

２年次に北海道大学病院での逆たすき研修を４週選択。

１年目										２年目		
循環器内科 ８週	脳神経外科 ４週	呼吸器内科 ４週	麻酔科 ４週	リウマチ・免疫内科 ８週	救命救急 ４週	脳神経内科 ８週	産婦人科 ４週	小児科 ４週	精神科 ４週	地域医療 ４週	腎臓内科（北大） ４週	【残りの期間】 将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科

●１年次に内科系と麻酔科を選択。その他外科系中心のローテート

１年目									２年目	
消化器内科 ８週	外科 ４週	循環器内科 ８週	麻酔科 ４週	救命救急 ４週	呼吸器内科 ８週	心臓血管外科 ４週	泌尿器科 ８週	糖尿病・内分泌内科 ４週	地域医療 ４週	【残りの期間】 残りの必修科目、将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科

〈具体例１〉　消化器内科医になることを決めたＡさん

大学卒業時には内科系に進むものと漠然と決めておりました。当院では必須選択の他に、２年次の最初に消化器内科を選択しました。病理診断科で１２週の研修の後、麻酔科、さらに再度消化器内科を選択し、生涯消化器内器科医になることを決心し、３年目以降は、当院専攻医として消化器内科勤務の予定です。

１年目	糖尿病・内分泌内科　８週	産婦人科　４週	外科　４週	精神科　４週	血液内科　８週	救命救急　４週	消化器内科　８週	呼吸器内科　８週	小児科　４週

２年目	消化器内科　４週	地域医療　８週	病理診断科　12週	麻酔科　４週	消化器内科　８週	泌尿器科　５週	耳鼻咽喉科・甲状腺外科　４週	精神科　７週

〈具体例２〉　外科医になることを決めていたＢさん

大学在学中に、将来は外科医になることを既に決心していました。当院では、１年目には必修科を選択し、２年目は必修の地域医療以外は外科診療科のみを選択し、より早い外科医としての技術習得を目指しました。

１年目	糖尿病・内分泌内科　８週	循環器内科　８週	呼吸器内科　８週	救命救急　４週	精神科　４週	小児科　４週	産婦人科　４週	消化器内科　８週	麻酔科　４週

２年目	地域医療　４週	呼吸器外科　１２週	心臓血管外科　１２週	外科　２４週

〈具体例３〉　精神科医院を開業する予定のＣさん

将来は、実家の精神科医院を継ぐことを目指しており、精神科のみならず、開業医にとって必要な広範な知識を得るため、糖尿病・内分泌内科や泌尿器科、皮膚科、放射線診断科も選択しました。２年目の終盤から３年目の専門研修も当院の精神科で学ぶ予定です。

1年目	消化器内科8週	循環器内科8週	救命救急 4週	産婦人科 4週	糖尿病・内分泌内科 8週	血液内科 4週	小児科 5週	精神科 7週	腎臓移植外科 4週

2年目	泌尿器科 4週	皮膚科 4週	放射線診断科 9週	地域医療 4週	外科 6週	感染症内科 8週	呼吸器内科 8週	精神科 9週

2 各科プログラム

呼吸器内科

肺癌、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎等の呼吸器疾患の診断治療に参加し理解する。

データや画像所見を判断し診断に至るプロセス、さらに治療に結びつく過程を理解し内科的な診療スタンスを身に付ける。

胸水穿刺排液、気管支鏡、胸腔ドレーン留置等の手技の見学、介助。

【週間スケジュール】

月曜日	病棟診療、指導医の外来診療に参加
火曜日	病棟診療、指導医の外来診療に参加 15:30　病棟患者カンファレンス 16:00　勉強会
水曜日	病棟診療、指導医の外来診療に参加 9：50　　気管支鏡検査
木曜日	病棟診療、指導医の外来診療に参加 隔週で 17:30 より　院内肺癌合同検討会
金曜日	病棟診療、指導医の外来診療に参加 12：50　気管支鏡検査

<table>
<tr>
<td>消化器内科</td>
<td>
消化器内科では消化管、肝臓、胆膵領域と幅広い疾患を経験することができる。患者さんの診療を通し基本的診察法を学び、研修医自ら検査を施行し、上下部内視鏡検査、腹部超音波検査に習熟することが可能である。
カンファレンスは外科、放射線科、病理科など他科とも積極的に行われており、院外の研究会にも定期的に出席し、高いレベルを維持することに努めている。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>病棟、外来エコー、内視鏡検査　　病理カンファレンス　院外勉強会</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟、外来エコー、内視鏡検査　　外科、放射線科カンファレンス</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟、外来エコー、内視鏡検査</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟、外来エコー、内視鏡検査、ERCP</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟、外来エコー、内視鏡検査、消化器内科カンファレンス
総回診</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>循環器内科</td>
<td>
〇特徴：循環器疾患のプライマリ・ケアから専門診療まで、急性期（CCU）から慢性期診療まで、幅広く研修可能。
〇習得技術・手技：循環器疾患基本的診察法、循環器検査法の解釈・実践。（心電図・心エコー・ホルター心電図・心臓超音波・心臓 CT・心臓核医学・心臓カテーテル・心臓電気生理検査）
〇目標：循環器疾患のプライマリ・ケアを頭と体で覚えること。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>CCU カンファレンス（8:30～）、心臓電気生理・心臓カテーテル検査・治療（午前、午後）、心エコーカンファレンス（夕方～）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>CCU カンファレンス（8:30～）、心臓カテーテル検査・治療（午前・午後）、ハートチーム・TAVI カンファレンス(隔週 15:45～)</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>CCU カンファレンス（8:30～）、心臓カテーテル検査・治療（午前・午後）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>CCU カンファレンス（8:30～）、部長総回診（10:00～）、心臓カテーテル検査・治療・弁膜症治療（午前・午後）、症例カンファレンス（16:30～）、合同カンファレンス（形成外科 17：00～、心臓血管外科 17:30～）</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>CCU カンファレンス（8:30～）、心臓電気生理・心臓カテーテル検査・治療（午前、午後）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>腎臓内科</td>
<td>
当科はネフローゼ症候群・糸球体腎炎・遺伝性腎疾患の診断と治療、急性腎不全、CKD教育入院、血液透析・腹膜透析の導入・管理、水電解質異常の精査加療などを広く行っています。
腎代替療法の選択の提示方法、急性期や周術期のさまざまな透析管理、腎移植の見学や術前の血漿交換、血圧管理や利尿薬・ステロイド・免疫抑制剤の使い方、受け持ち症例の腎病理組織を実際に見て、治療を考えるプロセスも経験できます。
習得技術は、一般的な内科診察のほかに、中心静脈カテーテル留置、透析用ブラッドアクセスの穿刺と管理、血液透析回路や腹膜透析の操作、腎形態の画像評価、血管エコーなどです。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>病棟、透析室診療・腎生検見学
北大２内合同腎病理カンファレンス（第３月曜日）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟、透析室診療・内シャント作成見学
腎病理カンファレンス（第２火曜日）
移植腎病理カンファレンス（第３火曜日）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟、透析室診療・腎生検見学</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟、透析室診療・腎移植見学、腹膜透析外来見学、腎代替療法選択外来見学
14：30～透析カンファレンス、16：00～病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟、透析室診療。内シャント作成</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>糖尿病･内分泌内科</td>
<td>
基本的診察法（一般内科および糖尿病・内分泌内科関連疾患の診かた）、各種臨床検査法の解釈（糖尿病コントロールおよび合併症診断、内分泌負荷検査など）、甲状腺エコー、血糖降下薬（経口およびインスリン）の使い方および合併症治療一般の考え方、他科とのコンサルテーションの実際について研修します。糖尿病教室の講師として患者指導を体験します。病棟にて主治医として患者受け持ちがあります。研修医の各種学会、研究会への参加を推奨しています。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>抄読会（16:45～17：15）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>教育入院カンファレンス（15:30～16:00）症例カンファレンス（17:00～18:00）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>甲状腺エコー（月～金午後）、頸動脈エコー（火・木午後）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>リウマチ･免疫内科</td>
<td>
当科では関節リウマチ・全身性エリテマトーデスを始めとする膠原病一般の診療に従事しています。
発熱性疾患の鑑別法、関節所見含む基本的診察法、臨床検査法（自己抗体など免疫学的検査の病的意義の判読）を習得できます。
また、関節エコーの手技および読影、CT・MRI 画像の読影、中心静脈カテーテル留置や骨髄穿刺手技といった診療に必要な手技・知識の習得が可能なほか、膠原病の標準的治療、関節リウマチの生物学的製剤を用いた治療法、副腎皮質ステロイド・免疫抑制剤の副作用とその対処方法について、リウマチ指導医による指導の下、研修します。
膠原病は多臓器に障害をきたしうるため、他科との連携を通じて急性期病態への対応を含めた、基礎から臨床にわたる総合的な内科知識の習得が可能です。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟カンファレンス：火曜日 15:00 より（血液内科と合同）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>血液内科</td>
<td>
造血器悪性腫瘍（急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）を中心とした、血液疾患の診療を通して、内科疾患の一般的な考え方を学びとともに、血液疾患の理解を深めることを目的とします。
多数の化学療法を施行している他、造血幹細胞移植（自家、血縁同種）も随時試行しており、血球減少期および免疫不全状態における、全身管理、感染症の理解が深まります。将来、内科各科や化学療法に携わろうと考えている方のみならず、どのような診療科に進もうと考えている方でも、将来役に立つ経験、知識が得られると思います。
手技としては骨髄穿刺、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル留置（PICC も含む）などが習得可能です。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>血液内科カンファレンス（16:00～）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟（合同）カンファレンス(15:00～)</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>精神科</td>
<td>
身体合併症を併せ持つ精神科救急の患者さんを中心に診ており、総合病院における精神科医療全般を研修します。
精神医学的な面接・診察の基本、精神症状をみた時の診断の手順、せん妄を含む意識障害の鑑別と治療、リエゾンチームなどの多職種協働チーム医療の実践、向精神薬の選び方と使い方など、どの診療科でも役に立つ基礎知識と技術を学びます。
【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>朝カンファレンス（8:45～）、リエゾン・病棟業務
病棟カンファレンス（16:30～17:15）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>朝カンファレンス(8:45～)、リエゾン・病棟業務
緩和ケアチームカンファレンス（13:00～14:00）
病棟カンファレンス（16:30～17:15）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>朝カンファレンス(8:45～)、リエゾン・病棟業務
リエゾン・認知症ケアチームカンファレンス（13:30～14:30）
病棟カンファレンス（16:30～17:15）
北大教室行事（17:00～18:30）（自由参加）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>朝カンファレンス(8:45～)、リエゾン・病棟業務
リエゾン・認知症ケアチームラウンド（13:30～14:30）
病棟カンファレンス（16:30～17:15）</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>朝カンファレンス(8:45～)、リエゾン・病棟業務
病棟カンファレンス（16:30～17:15）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>精神科救急対応（日中）、新患外来業務、症例検討会</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>脳神経内科</td>
<td>
神経内科一般診察法と神経学的異常所見の取り方。
髄液検査、電気生理学的検査(脳波、筋電図所見など)、筋生検、神経生検の実施方法と所見のみかた、神経放射線学的検査(CT, MRI) のみかた、神経難病プラス頭痛、脳卒中などの common disease への対処法、神経内科リハビリテーション医療、以上を複数の神経内科指導医が指導します。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>病棟回診、新患外来診療　神経生理検査</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟回診　総回診　病棟カンファレンス　神経筋生検</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟回診　新患外来診療</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟回診　神経生理検査</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟回診　新患外来診療、病棟カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>小児科</td>
<td>
上級医の直接指導の下で、入院患者の主治医として小児の基本的な診察法・検査法・治療手技を研修します。感染症など小児に一般的な急性疾患のほか、糖尿病・内分泌疾患・神経筋疾患・腎疾患・循環器疾患・アレルギー疾患など幅広い疾患を診ることができます。
研修期間中に、ひとつの症例について深く勉強したことを発表し、討論を経験する場を設けています。
二次救急当番では小児科当直医とともに診療にあたり、小児の初期救急対応を研鑽します。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月～金曜日</td><td>朝カンファレス（8:45～9:00）
病棟回診、入院対応（臨時入院、定期検査入院）
各専門外来診療</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟カンファレンス（15:00～15:45）
症例カンファレンス（15:45～16:30）症例発表・討論
抄読会（17:30～新生児内科と合同）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>札幌市小児二次救急当番（月 5～6 回）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>新生児内科</td>
<td>
健常新生児の診察：当院産科出生の新生児初回診察と退院時診察　ルーチンの検査、処置手技修得、新生児黄疸の管理法。
NICU 入院新生児の診療：診療基本の理解（保温、感染予防、栄養）。
新生児画像診断：レントゲン読影、頭部心臓超音波検査。
新生児早産児生理に基づいた治療の理解：呼吸管理法の選択、循環管理、酸素投与法、体液輸液管理、栄養法、血糖管理、感染管理。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>毎朝　産科新生児室回診
午後　フォローアップ外来
毎夕　総回診</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>毎朝　産科新生児室回診
午後　1ヶ月健診・フォローアップ外来
毎夕　総回診
17:30 小児科新生児内科合同抄読会</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>毎朝　産科新生児室回診
午後　病棟カンファレンス
産科新生児内科合同周産期カンファレンス
毎夕　総回診</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>毎朝　産科新生児室回診
午前　NICU 症例カンファレンス
午後　フォローアップ外来
毎夕　総回診</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>毎朝　産科新生児室回診
午後　フォローアップ外来
毎夕　総回診</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>外科、乳腺外科</td>
<td>
手術対象となる消化管・肝胆膵、乳腺、ヘルニアなどの診療を行います。研修医のみなさんは周術期管理、外科的理学所見のとり方のほか感染対策、栄養管理、医療安全の基本も習得します。外科的基本手技(切開/縫合/結紮)、観血的処置(内頸静脈穿刺/ｶﾃ留置、胸腔/腹腔穿刺、腰椎穿刺など)を習得し超音波検査、各種造影検査なども行います。病院向かいのトレーニング施設「ヴィレッジプラス」で腹腔鏡手技の基本を学ぶことができます。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>回診、手術</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>症例カンファレンス 8:15～8:30、
回診、検査（造影など）
消化器カンファレンス 16:30～19:00（第 1 火曜日はキャンサーボード）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>回診、手術</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>回診、手術、検査（CV ポート挿入など）
外科カンファレンス 14:00～15:30
リハビリ＆退院支援カンファレンス 15:30～</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>回診、手術</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>乳癌キャンサーボード 18:00～19:00（第 3 水曜日）
栄養サポートチームカンファ（月 2～3 回，火木 午後）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>整形外科</td>
<td>
当科は、整形外科疾患のうち骨腫瘍を除く上肢・下肢・脊柱の各専門医が常勤しており、さまざまな疾患に対応可能である。
研修内容については、一般患者および救急患者の診察をできるように整形外科の基本的診察法や骨折・脱臼・開放創などの整形外科的処置を習得することを目標とする。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>術前術後カンファレンス、リハビリとのカンファレンス（2 週に 1 回）総回診</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>外来カンファレンス、外来および手術</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>術前術後カンファレンス、外来手術</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>外来および手術</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>術前術後カンファレンス、外来および手術</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>形成外科</td>
<td>
創傷治癒の専門科です。
形成外科的縫合法（の基本）、顔面外傷の診断、難治性潰瘍・褥瘡の治療、熱傷の治療を行っています。
・修得可能な手技：皮膚縫合、皮下縫合（手結び）、皮下縫合（器械結び）、真皮縫合、皮膚小腫瘍の切除、熱傷の局所管理、熱傷の全身管理（救急科と一緒に）、創傷被覆材の使用法、軟膏の使い分け

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>8:00～9:00；カンファレンス（入院患者検討会）、16:00～総回診、17:00～カンファレンス（抄読会等）、外来日</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>手術日</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>外来日、手術日、褥瘡回診</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>手術日、フットケア外来、17:00～手術検討会、新患チェック</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>外来日、16:00～病棟･外来カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>脳神経外科</td>
<td>
脳神経・脊髄外科疾患全般を診ています。脳神経外科関連の基本的外科処置、腰椎穿刺などの検査、簡単な手術手技を経験してもらいます。
脳機能と解剖の関係を神経学的所見の取り方、神経放射線学的検査の読影法などを通して習得し、実際に脳を見て触れてもらいます。
神経救急疾患の初期対応から治療まで学んでもらいます。
脳疾患を念頭に置いた周術期脳・全身管理法（呼吸、循環、輸液、栄養など）や合併症対策（高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化性疾患、不整脈、感染症など）も習得してもらいます。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>リハビリカンファレンス（15:30～）、総回診（16:00～）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>手術（全身麻酔下の脳血管内手術を含む）（9:00～）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>脳血管造影、局麻下の脳血管内手術（13:00～）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>手術（全身麻酔下の脳血管内手術を含む）（9:00～）</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>脳血管造影、局麻下の脳血管内手術（13:30～）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>呼吸器外科</td>
<td>
外科に必要な手技（切開、縫合、穿刺、ドレナージ、ＣＶカテーテル留置など）の習得はもちろん、ドレッシング法、清潔管理、術前精査や術後の全身管理を学んでもらいます。
手術は助手として全症例に参加し、担当患者の中で機会があれば指導医の下、術者とし手術をしてもらいます。
学術的には、学会発表、論文作成のための指導を行います。研修中に少なくとも１回以上の学会発表を目標としています。
必ず習得する手技：鎖骨下静脈 CV カテーテル留置，胸腔ドレナージチューブ挿入。これらは症例数の多い当科に研修に来なければなかなか習得できません。
また、毎年 7 月に神戸で日本呼吸器外科学会主催の 1 泊 2 日の胸腔鏡実技研修を目的としたサマースクールが開催されていますが、当科研究費にて負担しますので、なるべく参加していただきたいと考えています。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>朝夕回診，外来（AM 新井、PM 後期研修医），時々臨時手術</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>朝夕回診，終日手術</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>朝夕回診，外来（AM 田中、PM 新井），時々臨時手術</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>朝夕回診，外来（1 日櫻庭），早朝抄読会，夕方手術室調整会議</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>朝夕回診，終日手術</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>学会発表，緊急気胸症例への対応（胸腔ドレナージ等）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>心臓血管外科</td>
<td>
心臓（先天性、後天性）・大血管・末梢血管の外科治療を行っており、冠動脈再建においては心拍動下手術が９割以上を占める。
手術・周術期管理への参加および周術期に必要な基本的な手技（中心静脈カテーテル挿入、スワンガンツカテーテル挿入、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ）を習得してもらう。
血管外科に必要な基本的手技（末梢動脈の露出、血管吻合）を内シャント作製などで習得してもらう。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>手術（心臓・大血管）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>検査、血管内治療（シャントPTAなど）、術前合同カンファレンス</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>手術（心臓・大血管）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>手術（ステントグラフトなど）、循環器センターカンファレンス</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>術前合同カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚科</td>
<td>
軽症から重症まで多彩な皮膚疾患の症例を経験できます。
毎日病棟と外来の両方で研修します。外来では上級医の指導のもと初診患者の予診を取り、検査、治療に関わります。週 2 回のカンファレンスで理解を深めるほか、大学の検討会参加や、学会・論文発表も可能。基本的皮膚科診察法、検査（皮膚組織検査、真菌顕微鏡検査、パッチテスト、プリックテスト、皮内反応、サーモグラフィー、細菌培養、真菌培養、光線過敏症検査など）、手術、理学的療法（凍結療法、光線療法、ほか）を学ぶことができます。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>午前中：病棟回診、外来研修（月―金）
スライドカンファレンス</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>光線外来</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>手術日、院外カンファレンス参加（北海道大学皮膚科）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>総回診、病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>光線外来</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>泌尿器科</td>
<td>
泌尿器科は、腎・尿路・副腎・後腹膜・男性生殖器・女性尿路生殖器を対象とし手術的治療を中心に診療を行う。
● 研修医は泌尿器科専門医とともに２０名程度の入院患者の診療に当たる。
● 病歴聴取や理学的検査の方法を学び、画像診断を含む各種検査の計画と検査結果の判断を行えるようにする。
● 泌尿器科の特殊検査として膀胱内視鏡検査や前立腺生検、腎生検の方法を学ぶ。
● 基本的な手術手技に関して学習し、開放手術や腹腔鏡手術の助手、小手術の術者として研鑽する。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>腎移植患者に関する腎移植外科との合同カンファレンス（8:00～9:00）
手術および回診</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>入院患者に関するカンファレンス（8:00～9:00）
回診およびレントゲン検査
病理カンファレンス（月１回、17～18 時）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>術前カンファレンス（8:00～9:00）
手術および回診</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>術後カンファレンス（手術動画の振り返り）（8:00～9:00）
手術および回診</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>外来患者に関するカンファレンス（8:00～9:00）
回診およびレントゲン検査
入院患者に関するカンファレンス（14：00～15:00）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>腎臓移植外科</td>
<td>
25 年以上の歴史をもち、全国で 5-6 番目に多い移植件数を誇る腎移植施設である。
〇腎移植の手術、免疫抑制剤管理、水分出納の管理習得。
〇腎機能障害の鑑別（生化学データ、画像所見）の習得。
〇鏡視下ドナー腎採取術による鏡視下手術、腎外科的手術の習得。
〇末期腎不全患者の併発症の把握、診断、アプローチの習得。
〇ドナー、レシピエントの医学的、倫理的適正評価の習得。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>移植予定症例、移植病棟カンファレンス（8:00～9:00）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>泌尿器科合同病棟カンファレンス（8:00～9:00）、
移植腎病理カンファレンス（月１回、17:00～18:00）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>泌尿器科合同術前カンファレンス（8:00～9:00）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>術後カンファレンス（手術動画の振り返り）（8:00～9:00）
生体腎移植、術後管理</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>泌尿器科合同外来と病棟カンファレンス(8:00～9:00）、
移植外来カンファレンス（14:00～15:00）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>産婦人科</td>
<td>
産婦人科医療に必要な基本的診察法、検査法、診断、対処法について研修を行います。
総合周産期母子医療センターがあり、多数のハイリスク妊産婦の管理方法を経験することができます。
婦人科では悪性腫瘍の診断・治療、腹腔鏡手術と骨盤臓器脱の最新治療法を経験することができます。産婦人科領域におけるエコーの習得と手術助手の経験が重要と考えます。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>手術、術前カンファレンス（17:00～）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>手術</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟カンファレンス（8:00～）、周産期カンファレンス（15:30～）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>総回診、術前カンファレンス（17:00～）、抄読会（第 1 木曜 8:30～）、病理とのカンファレンス（第４木曜 17:30～）</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>手術</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>眼科</td>
<td>
網膜硝子体疾患を中心に眼科全般にわたって研修を行います。
眼科の基本的検査(視力、眼圧、細隙灯顕微鏡、眼底)および精密検査(蛍光眼底造影、ＯＣＴ、視野など)を習得できます。
白内障や網膜硝子体疾患の手術に助手として多数参加することにより、顕微鏡手術の基礎を習得できます。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>朝：回診、午前：手術、午後：手術、硝子体内注射</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>朝：回診、午前：手術、午後：外来
夕方：症例検討会(第 2,4 週)、抄読会（第 3 週）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>朝：回診、午前：外来、午後：外来</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>朝：回診、午前：検査、午後：手術</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>朝：回診、午前：外来、午後：手術、総回診、白内障手術説明会</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>耳鼻咽喉科・
甲状腺外科</td>
<td>
耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的診察方法、画像および臨床検査結果の読み方について研修を行います。特に診察方法として耳鼻咽喉科ファイバー検査法は習得して頂きます。病棟では優先的に耳鼻咽喉科救急疾患患者の受け持ちを担当し（副担当医）、基本的には全手術に助手として参加して頂きます。なお研修期間内での国内耳鼻咽喉科関連学会参加も可能です。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>病棟診察、外来診察、病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟診察、手術</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>病棟診察、午前手術、午後頭頸部外来</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟診察、外来診察</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟診察、手術</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>リハビリテーション科</td>
<td>
リハビリテーション科は、事故や疾病によって引き起こされた障害（例：運動麻痺、関節拘縮、筋力低下、高次脳機能障害、失語症など）を速やかに克服し、患者様が質の高い生活（QOL の向上）を営むことが出来るよう支援しています。
主治医ならびに担当療法士が総合的なリハビリテーション計画を作成し生活復帰に向けた支援を進めます。そして定期的に到達目標や実施計画の見直しを行い、個々の患者様に療法を調整 しています。
また重篤な疾病や重複する障害で長期の療養が必要とされる場合は、主治医と相談の上で回復期リハビリテーション病棟を有する病院施設等を紹介しています。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>整形外科（隔週 17:30～）、10 西病棟（隔週 15：00～）、脳外（15:00～）、リハビリｶﾝﾌｧ（17:30～）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>緩和ｹｱ（13:00～）、ＲＡ科（隔週 15:00～）、腎内（15:00～）、呼内（15:30～）、糖尿病教育入院（15:30～）、呼外心外（17:30～）ｶﾝﾌｧ</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>ＮＳＴ救急（15:00～）、5 西病棟（15：30～）ｶﾝﾌｧ、褥瘡回診（15:00～）、糖尿病講義（16:00～）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>部長 meeting（隔週朝 8:20～）、循内（15:30～）、精神医療ｾﾝﾀｰ（15:30～）ｶﾝﾌｧ</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>形成外科（15:30～）、脳神経内科（15:30～）ｶﾝﾌｧ</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>整形外科 Ope ｶﾝﾌｧ（月水金 8:10～）、症例ケースｶﾝﾌｧ（新人；火曜朝 8:10～）、嚥下 ST ｶﾝﾌｧ（水曜朝 8:15～）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>感染症内科</td>
<td>
〇一般的感染症の知識、抗菌薬について研修。
〇とくに血流感染患者の抗菌薬の選択、使用方法について学習。
〇輸入感染症の診断、治療。
〇渡航外来、ワクチンについて学習。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>午前：血流カンファレンス　　午後：渡航外来</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>午前：腹部エコー　　午後：渡航外来</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>午前：腹部エコー　　午後：血流カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>放射線治療科</td>
<td>
● がん治療に対する基本的な知識を取得し、放射線治療を行うがん患者さんの診療を通してコミュニケーション技術を研修する。
● 放射線治療の特性・対象疾患・治療方法を理解し、治療方針を検討できるようにする。
● 放射線治療計画を実際に行い、良い放射線治療が判断できるようにする。
● 強度変調放射線治療や定位放射線治療といった高精度放射線治療を理解し、実際に治療計画装置を操作することができる。
● 化学療法、分子標的治療との併用方法を理解する。
● 研修期間内での放射線治療関連の学会や研究会への参加も可能である。
【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>病棟回診、外来診察、治療計画</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>病棟回診、外来診察、治療計画、
13：00-緩和ケアカンファレンス</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>Journal Club、頭頸部外来、治療計画
10：00-病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>病棟回診、外来診察、治療計画、
（隔週 17：30-）肺癌カンファレンス、</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>病棟回診、外来診察、治療計画、
PM 放射線治療カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>放射線診断科</td>
<td>
当科の日常業務としては、CT、MRI、核医学検査、超音波検査、血管造影、IVR を行っている。これら画像検査の適応、適切な撮像法の選択、CT や MRI での造影剤の適切な使用、読影について研修し、読影報告書を作成する。
血管造影や IVR の適応について学び、手技を見学することも可能である。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>読影、IVR、臨床病理検討会（月 1 回第 4 月曜日、17:30～18:30）</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>読影、IVR、消化器カンファレンス（16:30～17:30。第 1 火曜日はキャンサーボード）</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>読影、超音波検査、超音波ガイド下生検、乳腺キャンサーボード（月 1 回第 3 水曜日、17:30～18:30）</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>放射線診断科カンファレンス（8:00～8:30）、読影、IVR、肺癌カンファレンス（月 2 回、17:30～18:30）</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>読影、超音波検査、超音波ガイド下生検</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>麻酔科</td>
<td>
研修内容は周術期管理チームとしての麻酔科の役割、即ち術前・術中・術後の全身管理を経験することです。超未熟児から 100 歳を超える高齢者まで、多くの麻酔管理症例があります。小児手術、帝王切開術、腎移植術、脳外科手術や心臓血管外科手術など麻酔専門医取得にも必要な麻酔管理が経験できます。
体験できる手技は、気管挿管，静脈確保法，エコー下中心静脈確保法，動脈カニュレーション法，局所麻酔法などです。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>早朝術前カンファランス，麻酔管理，術前術後診察
症例報告会(月末)</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>早朝術前カンファランス，麻酔管理，術前術後診察，
心臓血管外科とのカンファランス，薬剤・機器勉強会(月末)</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>早朝術前カンファランス，麻酔管理，術前術後診察</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>早朝術前カンファランス，麻酔管理，術前術後診察</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>早朝術前カンファランス，麻酔管理，術前術後診察，
心臓血管外科とのカンファランス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>緩和ケア内科</td>
<td>
当科では、がん患者および重度の苦痛に苛まれている患者に対して、最大限の苦痛緩和についてマンツーマンでの研修を実施します。
〇がんの痛みの診断、鎮痛法、その他の身体の苦痛についての評価と治療法の修得。
〇特にオピオイド鎮痛薬についての正しい知識と使用法の修得。
〇苦しみの中にある患者に対する医療者としての基本的態度の修得。
〇患者のみならず家族の苦悩にも配慮したコミュニケーションスキルの向上。
〇多職種間の連携、尊重と協力のスキルの獲得。
当院では、当科で研修しない研修医に対しても、卒後 2 年目から 5 年目までの医師に対する「緩和ケア研修会」を毎年開催するなど、研修医が参加しやすい体制を整備しています。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>9:15～9:30；緩和ケア病床入床判定会議
緩和ケアチーム回診</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>午前　外来　担当医師１名
他メンバーは緩和ケアチーム回診
13:00～14:00；緩和ケアチームカンファレンス（多職種連携）
午後　緩和ケアチーム回診</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>午前　外来　担当医師１名
他メンバーは緩和ケアチーム回診
13:00～14:00；抄読会(不定期)
14:00～15:00；緩和ケア病床カンファレンス
その後、緩和ケアチーム回診</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>9:15～9:30；緩和ケア病床入床判定会議
緩和ケアチーム回診</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>午前　外来　担当医師１名
他メンバーは緩和ケアチーム回診
13:00～14:00；抄読会(不定期)
午後　緩和ケアチーム回診</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>土曜日　当番による緩和ケアチーム回診　緩和ケア病床回診
日曜日　当番による緩和ケア病床回診</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>病理診断科</td>
<td>
病理診断科は、全臨床科の病理診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。高度急性期病院としての機能を果たすため、正確な診断をできるだけ迅速にすることを心がけています。また、解剖は全例について全職員参加型の CPC を行い、研修医の教育に努めています。北海道の腎臓医療の中核施設として、腎生検病理診断を年間 800 件以上行う専門施設の側面があります。日本病理学会の病理専門研修プログラムを有しており、当院のプログラムで病理専門医を目指すことも可能です。初期研修期間は原則として１か月から３か月で、病理診断の基礎の習得が目標です。
〇検体の正しい取り扱い方、固定の仕方、依頼書の書き方を習得する
〇病理標本の適正な切り出し方を習得する
〇正常組織と各種病変組織像の見方、頻度の高い疾患の組織診断と鑑別を習得する
〇特殊染色や免疫染色の基礎知識を習得する
〇病理診断レポートの記載法、表現方法を学ぶ
〇病理解剖があれば、臨床病理検討会で発表しレポートを作成する。
〇特定の志望科があれば、それに対応したプログラムを実施可能である。
例）腎臓内科志望の場合、腎生検、蛍光抗体法、電子顕微鏡検査を学ぶ
例）血液内科志望の場合、骨髄生検像と塗抹標本像（塗抹標本観察は検査部と要調整）を学ぶ
例）婦人科、呼吸器科志望の場合、細胞診を学ぶ

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>第三）北大腎生検カンファレンス、第四）臨床病理検討会(CPC)</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>消化器キャンサーボード、第二）剖検マクロカンファレンス、腎生検カンファレンス、第三）泌尿器・移植腎生検カンファレンス</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>第一、第三）抄読会、第三）乳癌キャンサーボード</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>毎週）病理部門ミーティング、第一、第三）呼吸器疾患カンファレンス、第四）婦人科細胞診カンファレンス</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>救命救急センター</td>
<td>
札幌市・道央圏の三次救急施設として重症患者の受け入れに加え、院内重症患者の全身管理を担当しています。あわせて年間約 1,000 件です。
心肺停止患者、重症外傷、中毒、熱傷、臓器不全、敗血症患者などの初期治療、評価、集中治療室での全身管理などを行います。
気道確保、中心静脈確保、気管支鏡、超音波検査、熱傷をはじめとする各種創傷処置などを一緒におこないながら手技を取得してください。
全身・諸臓器にわたる系統的なカルテ記載と毎日のカンファランスでのプレゼンテーションを行うことにより、臨床医としての基本的な思考法・発表能力を身に付けてください。
ドクターカー乗車、ヘリ搭乗などの機会もあり、病院外での救急活動を経験できるチャンスもあります。

【週間スケジュール】
<table>
<tr><td>月曜日</td><td>朝のカンファランス、回診　担当患者の評価、オーダー、処置
搬入患者の外来処置に参加　夕方のカンファランス、回診</td></tr>
<tr><td>火曜日</td><td>同上</td></tr>
<tr><td>水曜日</td><td>同上</td></tr>
<tr><td>木曜日</td><td>同上</td></tr>
<tr><td>金曜日</td><td>同上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>休日に勤務する場合もあり（その場合は平日が休み）。
休み希望は要相談。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

3　その他の研修等

⑴　プライマリケアを重視した臨床研修センターの診療研修

各診療科のローテーションによる専門研修とは別に、指導医の指導のもと、プライマリケアを重視した診療研修（一般外来・救急車対応・病棟）を行います。

また、二年次の臨床研修医が中心となり、ケースシェアカンファレンスを開催し、臨床研修センターに来られた患者の診療を共有する時間を持っています。

⑵　モーニングレクチャー

毎週月曜日、早朝（7:30～8:00）に、各診療科が持ち回りで講義を行います。研修医に必須となる各診療科の知識について、診療科部長を中心としたスタッフが講義します。

⑶　ハンズオンセミナー

当院に隣接するシミュレーションセンターを、月１回借り上げています。da Vinci、腹腔鏡手術等の手技トレーニングを行うことができます。

⑷　Surgery Tonight（外科系診療科主催の手技イベント）

毎年１回、７月頃に開催しており、在籍する研修医の他、全国の医学生の方々が参加自由のイベントです。

外科系各診療科の代表的な外科手技を体験でき、各診療科の先生から直接話が聞ける良い機会でもあります。

⑸　木曜夜の臨床講座

毎週木曜日の夜には、「指導医による手技レクチャー」、「二年次研修医によるケースシェアカンファレンス」、「指導医による振り返り症例検討会」などの木曜夜の臨床講座を行っています。

⑹　救急外来（日直・夜勤）

月に３回程度（日直１回、夜勤２回程度）の救急外来当番があります。（救急部門必修期間の12週のうち８週は、２年間通して従事する救急外来当直を救急部門８週とみなします。）

【参考】

市立札幌病院臨床研修要綱

（目的）

第１条 この要綱は、市立札幌病院における臨床研修及び臨床研修医（医師免許取得後１～５年次の医師を指す。以下「レジデント」という。また、１、２年次を「初期研修医」、３、４、５年次を「専攻医」という。）に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（レジデント教育委員会（研修管理委員会））

第２条 市立札幌病院臨床研修の実施を統括管理する機関として、市立札幌病院長（以下「病院長」という。）の諮問機関であるレジデント教育委員会を設置する。

２ レジデント教育委員会は、市立札幌病院臨床研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、研修医の管理及び研修医の採用・中断・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括管理を行うものとする。

３ 委員会の委員は、病院長が指名し、以下の者を含むこととする。

病院長、事務部門の責任者、第５条に定めるプログラム責任者、臨床研修病院群を構成する全ての関係施設の研修実施責任者

４ 委員会の委員長は、病院長とする。

５ 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

６ 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を、臨時に委員として委員会に出席させることができる。

７ 委員会の庶務は、総務課職員係において行う。

（レジデント教育委員会プロジェクトチーム）

第３条 レジデント教育委員会の下部組織として、レジデント教育委員会プロジェクトチームを設置する。

２ レジデント教育委員会プロジェクトチームのメンバーは、病院長が指名する。

３ レジデント教育委員会プロジェクトチームには、メンバーの中から病院長が指名した責任者をおく。

（臨床研修センター）

第４条 市立札幌病院臨床研修プログラム及びレジデント教育委員会で決定した研修計画等に基づいて、レジデント教育を具体的に実施し、研修環境の整備やレジデントの相談を受ける役割等を担う機関として、臨床研修センターを設置する。

２ 臨床研修センターには、臨床研修センター長をおく。

（教育責任者（プログラム責任者））

第５条 市立札幌病院における臨床研修教育責任者（プログラム責任者）は、病院長とする。

（教育方法）

第６条 レジデントの教育は、市立札幌病院臨床研修プログラムに基づき、臨床研修センター及びレジデントが配属された各診療科において行う。

２ 初期研修医の教育については、厚生労働省臨床研修到達目標に基づき行うものとする。

３ 専攻医の教育については、将来的に志望する専門医分野に応じて、志望する診療科に配属され、市立札幌病院の医療業務に従事し、専門的医療を修得するために行うものとする。臨床研修センター及び各診療科部長は、専門医等の資格取得に向けた配慮を行うことに留意するものとする。

（院内研修会への出席）

第７条 レジデントは、必要に応じて、院内研修会へ出席しなければならない。

（宿日直等）

第８条 レジデントは、市立札幌病院宿日直規程に基づく宿日直勤務及び市立札幌病院当直・救急外来医師要綱に基づく救急外来に従事するものとする。

（定員）

第９条 レジデントの定員は、毎年度、予算の範囲において定めるものとする。

（提出書類）

第10条 レジデントの応募に当たって、札幌市病院企業会計年度任用職員の任用に関する要綱に関わらず、次の各号に定める書類を提出させるものとする。

⑴ 採用選考申込書

⑵ 履歴書

⑶ 医師免許証（写）又は大学卒業（見込）証明書

（選考方法）

第11条 レジデントの選考は、提出書類の審査及び面接等により行うものとする。

（身分）

第12条 レジデントは、原則、会計年度任用職員とする。ただし、人材確保の目的等の必要が生じた場合は、正規職員の身分、勤務条件で研修することができるものとする。

（勤務年限）

第13条 レジデントの勤務年限は５年以内とし、１年ごとに更新するものとする。ただし、レジデント教育委員会において、特別の事情により更に１年間勤務を延長することが適当と認められた場合は、病院長と協議のうえ、更に１年間勤務を延長することができるものとする。

（アルバイト）

第14条 初期研修医は、アルバイトを禁止する。

（補則）

第15条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は病院長が定める。

２ この要綱により難い事情があると認められるときは、病院長が別段の定めをすることができるものとする。

附 則

（施行期日）

１ この要綱は、平成13年４月１日から施行する。

２ この要綱は、平成16年４月１日から施行する。

３ この要綱は、平成18年４月１日から施行する。

４ この要綱は、平成19年４月１日から施行する。

５ この要綱は、平成21年４月１日から施行する。

６ この要綱は、平成23年４月１日から施行する。

７ この要綱は、平成25年４月１日から施行する。

８ この要綱は、平成25年10月１日から施行する。

９ この要綱は、平成26年４月１日から施行する。

10 この要綱は、平成27年１月１日から施行する。

11 この要綱は、平成27年３月１日から施行する。

12 この要綱は、平成28年４月１日から施行する。

13 この要綱は、平成29年５月８日から施行する。

14 この要綱は、平成31年４月１日から施行する。

15 この要綱は、令和２年４月１日から施行する。

市立札幌病院当直・救急外来医師要綱

平成１３年９月２０日制定
令和　２年４月１日改正

（目的）

第１条　この要綱は、札幌市病院局宿日直規程（平成18年病院局規程第19号。以下「規程」という。）第８条に基づき、医師及び歯科医師（以下「医師等」という。）の宿直勤務及び日直勤務の取扱いに関して必要な事項を定めるほか、救急外来診療（三次救急及び当番二次救急等（各科が行う救急外来診療をいう。以下同じ。）以外のもの。以下「救急外来」という。）に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

（用語の定義）

第２条　この要綱において使用する用語の意義は、規程において使用する用語の例によるもののほか、次のとおりとする。

⑴　科内当直　特定の科の診療のため実施する宿日直勤務をいう。

⑵　再来患者　受診診療科を問わず、過去１年以内に来院したすべての患者をいう。

⑶　救急患者　救急車で搬送される患者のうち、救急外来の対象となる患者をいう。

（救急外来）

第３条　救急外来は、次の各号に定める診療科以外の診療科に所属する３年目以上の医師（以下「指導医」という。）が担当し、初期研修医は研修の一環として指導医とともにこれに従事するものとする。

⑴　科内当直を毎日行う科

循環器内科、外科、新生児内科、産婦人科、精神科

⑵　緊急手術が多く科内当直を頻回に行う科

心臓血管外科、脳神経外科

⑶　その他

救命救急センター、麻酔科、小児科、病理診断科、放射線診断科、眼科、歯科口腔外科

２　前項の規定に関わらず、放射線診断科及び眼科所属の３年目から５年目の医師は、救急外来に従事するものとし、腎臓内科においては、土日祝（土曜日、日曜日、祝日法による休日及び年末年始の休日をいう。以下同じ。）の日勤を免除する。

3　同条第一項の規定に関わらず、育児・子育て中の女性医師の救急外来への従事については、次の各号に定めるとおりとする。ただし、本人が了承すればこの限りではない。

⑴　小学校３年生（満９歳に達する日の属する年度末）までの子がいる場合
救急外来への従事を免除する。

⑵　小学校４年生から小学校６年生（満１２歳に達する日の属する年度末）までの子がいる場合
救急外来への従事は土日祝の日直勤務のみとする。

4　救急外来において診療対象とする患者は、再来患者、救急患者、第８条各号に該当する患者のほか、医療機関の医師から診療要請のあった患者とする。

5　前項に規定する患者の診療要請の応需は、次のとおり取り扱うものとする。

⑴　応需の判断は最終的に指導医が行うものとするが、再来患者及び医療機関の医師から診療要請のあった患者並びに第７条各号に規定する患者は原則として断わらずに応需するものとする。

⑵　やむを得ず応需できなかった場合には、本条第１１項に規定する救急外来日誌に必要事項を記載するものとする。

6　救急外来に従事する医師の勤務形態は、次のとおりとする。

⑴　常勤職員である指導医

ア　夜勤

午後５時１５分から翌日午前８時４５分までの勤務とする。このうち、午前０時から午前８時３０分までの時間は休憩時間（原則として午前３時３０分から午前４時１５分までの時間）を除き正規の勤務時間とし、その他の時間は休憩時間（原則として午後５時１５分から午後５時３０分までの時間）を除き、時間外勤務命令による勤務時間とする。

イ　日勤

土日祝にあっては、午前８時４５分から午後５時１５分までの勤務とする。このうち、休憩時間（原則として午後０時１５分から午後１時までの時間）を除く時間は正規の勤務時間とする。

⑵　会計年度任用職員

ア　夜勤

常勤職員である指導医と同様の取り扱いとする。

イ　日勤

規程第２条に規定する宿日直勤務とする。

7　救急外来に従事することができる指導医の年齢は、次のとおりとする。ただし、本人が了承すればこの限りではない。

⑴　夜勤は、満５０歳未満の医師

⑵　日勤は、満５０歳以上かつ満６０歳未満の医師

８　救急外来においては、規程第３条及び規程第７条中「宿日直勤務」とあるのは「救急外来」と、「宿日直員」とあるのは「救急外来従事者」と読み替えるものとする。

９　救急外来に従事する医師の割当ては、概ね次に掲げるところによる。

⑴　指導医については従事する月の３か月前の月に、研修医については従事する月の前月にそれぞれ希望調査を行い、当該調査した月中(特別の事情のあるときは、当日まで)に院長が全体の均衡に配慮したうえで決定しこれを本人に通知するものとする。ただし、指導医の希望が重複した場合には、原則として人数の少ない診療科を優先する。

⑵　同一人に対して、連続して３以上の夜勤、日勤を行わせてはならない。

⑶　新たに採用した指導医に救急外来への従事を命ずる場合にあっては、採用後初めて行う第１号の希望調査で従事対象とする月まで、その者を救急外来に従事させてはならない。ただし、本人及び所属長が同意した場合は除く。

⑷　初期研修医の宿直勤務については、原則として第８項の規定により研修を免除する回数が月に４回を超えることがない範囲で割り当てる。

１０　職務のため又は私事の故障のため割り当てられた日に救急外来に従事することのできない者は、他の職員の中から交替者を委嘱し、あらかじめ所属長及び院長の承認を得て他の日の救急外来に従事することができる。

１１　救急外来従事者は、従事中に処理した事項その他重要と認める事項を、救急外来日誌に記載して、当該勤務終了後に院長に報告しなければならない。

（科内当直）

第４条　規程第４条第２項に基づき院長が承認する科内当直は、次のとおりとする。

⑴　科内当直を毎日行う科

循環器内科、外科、新生児内科、産婦人科、精神科

⑵　科内当直を随時行う科

消化器内科、リウマチ・免疫内科、血液内科、腎臓移植外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経内科、小児科

⑶　科内当直（日直）を土曜日及び休日に行う科

腎臓内科

⑷　上記以外の科

診療科部長は、科内当直を実施する場合は規程第４条第２項に基づく院長の承認を得るものとする。

２　科内当直を行う診療科に所属する育児・子育て中の女性医師の従事については、各診療科部長が定める。

（科内当直を随時行う科の留意点）

第５条　科内当直を行う場合は、必ず医局秘書に連絡し、救急外来に従事する医師及び当直看護師長が、その日の科内当直を行う「診療科」、「医師名」及び「連絡先」を把握できるようにするものとする。ただし、当日、急に科内当直を行うこととなり、医局秘書に連絡出来なかった場合は、直接、指導医及び当直看護師長へ連絡するものとする。

（再来患者への対応）

第６条　再来患者への対応は、救急外来に従事する医師が行うものとする。

ただし、患者の症状により専門科の医師等を必要と判断した場合は、次の各号に基づき指導医により当該診療科への対応を求めることができる。各診療科は毎月の当番表を作成し、予め医局秘書に提出することとする。院外への連絡は電話交換室（内線９番）を通して行うこととする。

⑴　小児科においては、科内当直を行っている場合を除き、オンコール対応医師へ対応を求める。

⑵　科内当直をしている診療科においては、当該診療科の医師等へ対応を求める。

⑶　その他の診療科においては、オンコール対応医師等へ対応を求める。

⑷　急を要する場合又は判断が困難な場合においては、診察のうえ救命救急センターの医師に対応を求める。なお、診察の応援要請は、救急外来に従事する医師自身が行うものとする。

⑸　救急外来に従事する医師が緊急手術などで対応が困難な場合には、外科科内当直医師に対応を求める。対応の依頼は、指導医が行うこととする。

（再来患者以外への対応）

第７条　再来患者以外の者からの診療要請について、次に掲げる患者等の診療要請は断らないものとする。

⑴　当院が逆紹介した患者

⑵　札幌市医師会の管理下で治験中の患者が急変した際の医療機関からの診療要請

⑶　診療科を問わず最終受診から１年以上経過した患者について、その症状等から診療が必要と医師が判断した場合

２　前条第４号及び第５号の規定は、再来患者以外への対応において準用する。

（個別の対応）

第８条　前条の規定に関わらず、次の各号に掲げる場合にはそれぞれ所定の対応を行うものとする。

⑴　眼科・産科・精神科患者

看護師を通じて各科当番医に連絡する。

⑵　気胸

電話交換室（内線９番）を通じて、気胸センター当番医へ連絡する。

⑶　当院再来患者で脳卒中が疑われる患者

脳神経外科又は脳神経内科で受け入れるので連絡する。

⑷　小児科フォロー中としてカルテに付箋・コメントが付いている患者

小児科当番医に連絡する。

小児科新患について、小児科より要請された場合は小児科医師到着までの間の診療を行う。

⑸　外国での咬傷などで狂犬病ワクチン接種が必要な患者及びマラリアが疑われる患者

新規、再来問わず、感染症内科医師に連絡する。

（入院患者ベッドの確保）

第９条　救急外来の対象患者を入院させる場合、基本的には臨時入院病床に入院させることとする。

ただし、担当診療科を決定できるときは、当該診療科医師が主治医となるため、当該診療科医師に入院手続き等を引継ぎすることとする。また、すぐに適切な診療科が決定できない場合は、翌朝までは、指導医が主治医となり、臨時入院病床に連絡する。

なお、臨時入院病床が満床の場合については、院内空床への入院で調整する必要があるため、看護部管理当直の看護師と調整することとする。

２　前項の規定に関わらず、救急外来において診療科が受入れ可能な入院患者数を予め指定している場合は、当該指定の範囲で臨時入院病床に入院させることを基本とする。この場合において、診療科は指定対象日の午後５時までに救急外来日誌に指定内容を綴るものとする。

（その他）

第１０条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は病院長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成１３年１０月１日から施行する。

（施行期日）

１　この要綱は、平成１４年　４月１日から施行する。

（施行期日）

１　この要綱は、平成１５年　４月１日から施行する。

（施行期日）

１　この要綱は、平成１５年　７月１日から施行する。

（施行期日）

１　この要綱は、平成２８年　４月１日から施行する。

（施行期日等）

１　この要綱は、平成２９年　５月８日から施行する。

２　改正後の要綱は、この要綱の施行の日に始める夜勤から適用する。

（施行期日等）

１　この要綱は、平成３０年　４月１日から施行する。

（施行期日等）

１　この要綱は、平成３１年　４月１日から施行する。

（施行期日等）

１　この要綱は、令和　２年　４月１日から施行する。

資料請求先

〒060-8604　札幌市中央区北11条西13丁目
市立札幌病院レジデント教育委員会
臨床研修センター事務局（総務課職員係）
TEL011-726-2211（内線2126）
E-mail：ho.kanri@city.sapporo.jp